

6月 開花マップ

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
アジサイ	アジサイ	アジサイ		センター池	6/3	アジサイはガクアジサイの花序全体が装飾花に変化したもので、古くから栽培されている。花は6月頃、枝先に散房花序を出し、直径3～6cmの装飾花を球状につける。果実は結実しない。	
イソノキ	クロウメモドキ	イソノキ		中央展望台	6/2	山地のやや湿った所に自生し、高さ2～3m。6～7月、枝の上部の葉腋に集散花序を出し、黄緑色の小さな花をつける。花は直径5mmほど。花弁と萼片はそれぞれ5個。果実は直径約6mmの倒卵状球形で、赤色から紫黒色に熟す。	
イヌツゲ	モチノキ	モチノキ		樹木探勝園	6/10	山地の岩場や林縁などに生育し、高さ5mになる。よく枝分かかれして、枝葉が密生する。花は雌雄別株で6～7月に小さな花をつける。果実は5～6mmの球果で10～11月に黒色に熟す。	
イボタノキ	モクセイ	イボタノキ		ファミリー広場入口	5/28	林縁に生育し、高さ2～4mになる。暖地では落葉しないこともある。花は5～6月、枝先に長さ2～4cmの総状花序をだし、白く小さな花をつける。イボタノキの仲間の樹皮にはイボタロウムシがつき、イボタロウ(虫ろう)が取れる。	
ウツギ	アジサイ	ウツギ	ウノハナ	学習展示館前他各所	5/19	日当たりのよい山野の林縁に生育し、高さ1～3mになる。花は5～7月、枝先に円錐花序を出し、白色の花を多数下向きにつける。幹の中心が空になっていることから空木(うつぎ)と名付けられた。	
ウメモドキ	モチノキ	モチノキ		さくら通り	6/2	湿地や湿った落葉広葉樹林内に生育し、高さは2～3mになる。花は雌雄異株で6月頃淡紫色の花が咲く。果実は、9～10月に赤色に熟し、落葉後も落ちずに残る。名前は葉がウメの葉に似ていることによる。	
オオバボダイジュ	アオイ	シナノキ		苗畑		葉は互生し、先は尾状に尖り、基部はゆがんだハート型。裏面は星状毛が密生し、脈腋には毛叢がある。花は6～7月に淡黄色の花を10個以上つけ、花柄には総苞葉をつける。	
オオヤエクチナシ	アカネ	クチナシ		見本園	6/25	クチナシの八重咲きで、花が大きい。葉は対生か3輪生し、全縁。革質で両面とも無毛。花は6～7月、枝先に芳香のある白く大きな花をつける。	
カキノキ	カキノキ	カキノキ	カキ	ファミリー広場	5/24	中国原産と言われ、高さ10m程度になる。成木の樹皮は縦に裂けてはがれる。花は雌雄同株で、5～6月に淡黄色の花を付ける。果実は液果で10～11月に黄赤色に熟す。	
カナメモチ	バラ	カナメモチ	アカメモチ	第3駐車場、園内	5/27	山地の斜面に多く、乾燥した尾根筋や沿海地にも生育し、高さ5～10mになる。若葉は紅色を帯びる。花は5～6月、直径10cmほどの複散房花序に白い小さな花を多数つける。	
ガマズミ	レンプクソウ	ガマズミ	アラゲガマズミ	管理事務所横三叉路、他園内	4/25	花は5～6月に枝先に直径6～10cmの散房花序をだし、白く小さな花を多数つける。果実は6～8mmの広卵形で9～11月に赤く熟す。コバノガマズミの仲間は葉柄が長さ6mm以下と短いのに対し、ガマズミの葉柄は1cm以上ある。	
キササゲ	ノウゼンカズラ	キササゲ	アズサ	薬草園	6/18	中国原産で川岸などの光のよくあたる場所に野生化し、高さ5～15mになる。花は6～7月、枝先に長さ10～25cmの円錐花序をだし、黄白色の花を多数つける。果実は利尿剤に使われ、樹皮や根は解熱剤や駆虫剤に利用される。	
キハダ	ミカン	キハダ	ヒロハノキハダ	薬草園	5/21	枝先に円錐花序を出し、黄緑色の小さな花を多数つける。樹皮の Cork 層を取り除いた内樹皮はベルベリンを含み、苦味がある。これを黄檗といい薬用や染料に用いる。	
キミノタマミズキ	モチノキ	モチノキ		西ゲート外林道向		タマミズキの変種で果実が黄色。	
キョウチクトウ	キョウチクトウ	キョウチクトウ		センター池下	6/14	インド原産で江戸時代中期に渡来したと言われる。花は6～9月に枝先に集散花序をだし、次々に花を開く。花色は、ピンク・赤・白など、八重咲き品種もある。果実は10～14cmの線形で、直立して付き、熟すと縦に裂けて種子を出す。	
キンシバイ	オトギリソウ	オトギリソウ		見本園	6/18	中国南部原産で庭木・公園樹として植栽され、花は切花にされる。高さ1mほど。花は6～7月、枝先に直径3～4cmの黄色の花をつける。キンシバイは雄しべが花弁より短い、ビョウヤナギは雄しべが花弁より長い。	

6月 開花マップ

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
クスノキ	クスノキ	クスノキ	クス	多目的広場	5/21	古くから神社などに植えられ、天然記念物に指定された巨樹や老樹が多い。広島市の木。花は5～6月に新葉のわきから円錐花序をだし、小さな花をまばらにつける。果実は10～11月に黒紫色に熟す。樹皮と葉に樟腦の香りがある。	
クチナシ	アカネ	クチナシ		見本園 レストハウス下、えん堤	6/25	林縁に生育し、高さ1～2mになる。枝は、はじめ緑色、のちに灰緑色になる。花は6～7月、枝先に芳香のある白色の花を1個ずつつける。花の先は5～7裂する。八重咲きのものもあり、葉も花ひとまわり小さいものはコクチナシ。	
クマノミズキ	ミズキ	ミズキ		第2苗畑、東山作業道	6/12	丘陵～山地の林内に生育し、高さ8～12m。樹形はミズキ科特有の枝の張り方で放射状に出て斜上する。花は6～7月、枝先に葉より高く散房花序を出し、小さな黄白色の花を密につける。果実は7～10月に紫黒色に熟す。	
クロガネモチ	モチノキ	モチノキ		管理事務所横他各所	6/3	山野の常緑樹林内に生育し、高さ10～20mになる。花は雌雄別株で6月頃白色または淡紫色の花をつける。果実は球形で11～12月に赤色に熟す。樹皮から鳥もちがとれる。	
ケンポナシ	クロウメモドキ	ケンポナシ		しゃくなげロード	6/25	葉は互生し、2枚ずつ付く。左右不対称。花は6～7月に緑白色の小さな花をつける。果実は紫褐色に熟す。花序の軸は花のあと膨らんで、果期には食べられる。材は器具等に利用される。	
コアジサイ	アジサイ	アジサイ	シバアジサイ	県木の森入口	5/21	山地や丘陵の明るい林内や林縁に生育する。花は6～7月に咲き、枝先に直径5cmほどの散房花序をだす。装飾花はなく、花はすべて両性花。果実は9～10月に熟す。	
コウホネ	スイレン	コウホネ		水生植物園	5/30	浅い池や沼などに生える多年草の水草。長く直立した円柱形の花柄の先に、黄色の花を1個上向きに開く。和名は河骨で、根茎が白骨のように見えたことによる。鎮静、利尿、止血などの薬効あり。	
コクチナシ	アカネ	クチナシ	ヒメクチナシ	見本園	6/30	クチナシの変種。高さ30～40cm程度で、地面を這うように育つ。葉は倒披針形で細長く、ほぼ無柄。花は小輪で八重咲き。	
コナスビ	サクラソウ	オカトラノオ		園内各所	5/13	日本全土の道端や草地に広く分布。草丈は5～20cmで、茎は地面を這うように広がる。葉は対生、広卵形。葉腋に小さな黄色の花を1個つける。花冠は深く5裂する。果実は球形のさく果。和名は果実がナスに似て小さいことに由来する。	
コムラサキ	シソ	ムラサキシキブ	コシキブ	苗畑	6/13	山麓の湿地などに生育し、高さ2m。花は7～8月に葉腋のやや上から集散花序を出し、淡紅紫色の花を10～20個つける。ムラサキシキブとの違いは、葉の鋸歯が上半分にしかないこと、花序の柄が葉腋より上につくことなど。	
ゴンズイ	ミツバウツギ	ゴンズイ	ゴゼノキ	薬草園横法面	5/30	各地の谷川沿いの林内に自生する。5～6月、枝先に円錐花序を出し、淡黄緑白色の花を多数開く。秋、果実が裂けると内面が鮮紅色で美しい。樹皮に白い筋があり、魚のゴンズイの模様に似る。	
サカキ	サカキ	サカキ	マサカキ	レストハウス進入路下	6/29	山地に生育し、神社などに植栽される。6～7月に白色の花が1～3個束生し、後に黄色味を帯びる。果実は11～12月に黒紫色に熟す。名前の由来は常緑なのでサカエキ(栄木)、神の静まる地のサカヒ(区域)の木など諸説ある。	
ザクロ	ミソハギ	ザクロ		見本園	6/19	西アジア原産で平安時代に渡来したとされる。6月に朱赤色の花をつける。果実は直径5cmほどの球形で、熟すと不規則に裂開する。果実は生食でき、樹皮は駆除剤などに利用される。	
サツキツツジ	ツツジ	ツツジ	サツキツツジ	管理事務所前他各所	5/14	ほとんどが栽培で自生はまれ。葉は互生し、枝先に数個集まってつく。春葉と夏葉があり、越冬するのは夏葉。花は5～7月、枝先に朱赤色の漏斗形の花をつけ、5中裂する。	
サラサウツギ	アジサイ	ウツギ		苗畑	5/19	ウツギの重弁の品種。花弁は外側が紅紫色を帯び、内面は白色。古くから栽培されている。	
サンゴジュ	レンプクソウ	ガマズミ		見本園、第2苗畑	6/19	海沿いの谷などに生育し高さ20mになる。花は6月、枝先に5～16cmの円錐花序をだし、白色の花を多数つける。果実は8～10月に赤くなり、完熟すると黒くなる。名前の由来は、赤い果実がたくさん付き珊瑚に見立てたことによる。	
シモツケ	バラ	シモツケ	キシモツケ	苗畑	6/18	岩礫地など日当たりのよいところに生育する。花は5～8月、枝先に半球形の複散房花序をだし、小さな花を多数つける。花弁は広卵形～円形で淡紅色、紅色、濃紅色、まれに白色と変異が多い。果実は9～10月に熟し裂開する。	
シャリンバイ	バラ	シャリンバイ	タチシャリンバイ	管理事務所前法面	5/14	海岸や海岸に近い山地に生育し、高さ1～4mになる。小枝は密生して輪生状にでる。花は5月頃、枝先に円錐花序を出し、直径1～1.5cmの白色の花を多数つける。果実は10～11月に黒紫色に熟す。移植はやや困難。	
シロウメモドキ	モチノキ	モチノキ		さくら通り	6/12	ウメモドキの変種とされ、花も核果も白色のもの。庭木に植えられたり、盆栽などに利用される。	

6月 開花マップ

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
スイカズラ	スイカズラ	スイカズラ	ニンドウ・キンギンカ	ファミリー広場入口	5/26	山野に生える半常緑つる性木本。花は5～6月、枝先の葉腋に甘い芳香のある花を2個ずつつけ、白色から黄色に変わる。若い葉はそのまま食べたり、乾燥させて忍冬(にんどう)茶にする。和名は花の蜜を吸うと甘いことによる。	
センダン	センダン	センダン	オウチ	車庫前	5/23	海岸近くの日当たりの良いところに生育する。花は5～6月に本年枝の基部の葉腋から10～15cmの集散花序だし、淡紫色の花を多数付ける。果実は10～12月に黄褐色に熟し、葉が落ちたあとも長く枝先に残っていることが多い。	
ソヨゴ	モチノキ	モチノキ	フクラシバ	さくら通り他各所	5/30	乾いた林内や林縁に生育し、高さ3～7mになる。花は雌雄別株で6～7月に小さな白色の花をつける。果実は直径約8mmの球形で10～11月に赤色に熟す。タンニンを含み褐色の染料として用いられる。	
タイサンボク	モクレン	モクレン	ハクレンボク	見本園	5/27	北アメリカ原産で高さ20mになる。花は6月頃に枝先に直径15～25cmの芳香のある白い花を付ける。果実は10～11月に熟し、長さ8～12cmの楕円形で袋果が集まった集合果。	
タチバナモドキ	バラ	タチバナモドキ	ホソバトキワサンザシ	センター池西岸	6/15	花期は5～6月で果実は橙黄色に熟す。日本ではタチバナモドキ・ヒマラヤトキワサンザシ・トキワサンザシなどが植栽されていて、これらを総称してピラカンサと呼ぶことが多い。果実の形や色がタチバナに似ているのでこの名が付けられた。	
タマミズキ	モチノキ	モチノキ		車庫東斜面		葉柄が1.5～2cmと長いのが特徴。雌雄別株で6月頃に緑白色の花をつけ、果実は10～11月に赤く熟す。和名は赤い果実が美しく、ミズキに似ていることによる。	
チュウゴクボダイジュ	アオイ	シナノキ		芝生広場	5/27	八千代湖(土師ダム)にあるチュウゴクボダイジュは中国地方で昭和47年に発見された新種で、県の天然記念物に指定。6月頃、集散花序をだし、淡黄色の花を咲かせる。	
ツツラフジ	ツツラフジ	ツツラフジ	オオツツラフジ ツタノハカズラ	レストハウス谷沿い	7/7	葉は互生、広卵形や角形、浅く5～7裂するなど変化に富む。花は雌雄異株、枝先や葉腋から淡い緑色の小さな花をつける。果実は球形で青黒く熟す。有毒。和名はつるがフジに似ていることによる。	
トウネズミモチ	モクセイ	イボタノキ		見本園	7/4	ネズミモチより大木となり葉も花序も大きい。ネズミモチの葉は光にかざしても葉脈は見えないが、本種では明瞭。果実はほぼ球形で径0.8～1cm、紫黒色に熟す。果実をつぶしても指は染まらない。中国原産で明治初期に渡来した。	
トキワサンザシ	バラ	タチバナモドキ		第2苗畑入口	5/22	葉は互生、幅が広く両面とも無毛。花は5～6月、枝先に散房花序をだし、白い花を多数咲かせる。果実は球形で、9～10月に鮮やかな紅色に熟す。	
トベラ	トベラ	トベラ	トビラノキ	見本園	5/28	海岸に生育し、高さ2～3mで大きいものは8mぐらいになる。雌雄異株。花は4～6月、本年枝の先に集散花序を出し、白い花を多数付ける。花は香りがよい。枝や葉、根に臭気がある。緑化センターでは鹿の被害が多い。	
ナツツバキ	ツバキ	ナツツバキ	シヤラノキ	管理事務所前他各所	6/10	樹皮はなめらかで10年ぐらいで古い樹皮が薄片状にはげ落ち、灰白色や赤褐色の大きな斑紋になる。花は6～7月本年枝の葉腋に直径5～6cmの白い花をつける。花弁は5個、ふちは波打ち、細かい鋸歯がまばらにある。	
ナナミノキ	モチノキ	モチノキ	ナナメノキ	苗畑東側法面	6/12	花は雌雄異株、6月頃に開花、当年枝の葉腋に淡紫色の散形花序をつける。果実は直径6mmのほぼ球形で、10月頃に赤く熟す。和名はナガミノキ(長実の木)やナノミ(名の実)がなまるとされる。	
ナンテン	メギ	ナンテン		センター池奥	6/26	庭木として植えられ、高さ3mほどになる。花は5～6月、枝先に大形の円錐花序を出し、直径6～7mmの白い花を多数つける。果実は直径6～7mmの球形で、10～11月に赤く熟す。	
ニワゼキショウ	アヤメ	ニワゼキショウ		園内各所	5/5	北アメリカ原産、明治中期に渡来し各地に広く帰化している。茎には扁平で狭い翼がある。5～6月、茎の先に細い花柄を出し、小さな紫色の花を次々に開く。花は1日でしぼむ。和名は葉がセキショウに似ていることによる。	
ネコノチチ	クロウメモドキ	ネコノチチ		薬草園下遊歩道沿い	6/24	花は5～6月、葉腋に直径約3.5mmの黄緑色の花が4～8個つく。果実は長さ8～10mmの長楕円形。黄色から黒色に熟す。和名は果実をネコの乳首に見立ててつけられた。	
ネジキ	ツツジ	ネジキ	カシオシミ	薬草園奥	5/22	日本固有種で山地の乾燥した尾根や斜面に生育し、高さ2～7mになる。生長すると、幹がねじれるのが特徴。花は5～7月に前年枝での葉腋から長さ4～6cmの総状花序を出し、白い花を下向きに多数つける。	
ネズミモチ	モクセイ	イボタノキ	タマツバキ	見本園	6/10	花は6月に新枝の先に円錐花序をだし、白色の小さな花を多数つける。果実は直径5～7mmの楕円形で10～12月に黒紫色に熟す。名前の由来は、実がネズミの糞のようで、葉がモチノキに似ていることによる。	
バイカツツジ	ツツジ	ツツジ		樹木探勝園他各所	5/19	山地に生育し高さ1～2m。花は両性、6～7月に白色に赤い斑点のある花を1～数個つける。果実は8～10月に熟す。名前は白く小さな花をウメに見立てたもの。	

6月 開花マップ

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
ハコネウツギ	スイカズラ	タニウツギ		センター池のり面	5/17	沿海地の海岸林に生育し、高さ5mになる落葉低木。花は5～6月に枝先や葉腋に2～3個ずつ付ける。最初は白色でしだいに紅色に変化する。和名は箱根に生育するウツギからだと思われるが、自生している数は少ない。	
ヒメシャラ	ツバキ	ナツツバキ		第2苗畑、第2駐車場	6/7	山地に生育し、高さ15m。樹皮は淡赤褐色でなめらか。花は5月頃に1.5～2cmの白い花を付ける。花弁は5個。果実は9～10月に熟し5裂する。	
ビョウヤナギ	オトギリソウ	オトギリソウ		ミアスレコース入口他	6/14	中国原産で古くから植栽され、高さ0.5～1.5m。花は6～7月に枝先に直径4～6cmの大きな黄色の花をつける。雄しべは多数あり、約30個ずつ5つの束になっている。雄しべが花弁より長く、キンシバイは雄しべが花弁より短い。	
ベニカナメモチ	バラ	カナメモチ		林間広場	5/27	カナメモチの実生変異種で、若葉が特に赤い本種を”ベニカナメモチ”と呼ぶ。	
マタタビ	マタタビ	マタタビ		林内	6/1	花は雌雄別株で6～7月に芳香のある白い花をつける。果実の塩漬けを酒の肴にしたり、果実酒に利用。虫えいの果実は薬用に利用。ネコ科の動物の好む植物として有名。	
マツバウンラン	オオバコ	マツバウンラン		園内各所	5/1	北アメリカ原産の帰化植物、草地や芝生などに生える。草丈10～60cm。葉は松葉のように細長い。花は紫色の唇形の花を穂状に咲かせる。果実はさく果。	
マルバチシャノキ	ムラサキ	チシャノキ		苗畑	6/10	海岸に近い山地の林縁などに生育し、高さ7～10m。花は6月頃、枝先に散房花序を出し小さな花を多数つける。花冠は5裂し、裂片はそりかえる。雄しべは5個、花柱は緑色。果実は直径2cmで、7～11月に黄色に熟し、生食できる。	
ムクロジ	ムクロジ	ムクロジ		センター池西岸	6/25	山地に生え、樹高15～20m。葉は偶数羽状複葉で、小葉は4～6対。花は雌雄同株で6月に黄緑色の小さな花を多数つける。果実は10～11月に熟し、中に黒い種子をつける。これを羽根つきの球に利用する。	
ムラサキシキブ	シソ	ムラサキシキブ	ミムラサキ	レストハウス裏他	6/10	山野の林内や林縁に生育し、高さ3m。花は6～8月に葉腋から集散花序をだし、淡紅紫色の花をつける。果実は直径3mmほどの球形で、紫色に熟す。果実はコムラサキに比べるとややまばら。	
ヤブムラサキ	シソ	ムラサキシキブ		第2苗畑、東山作業路他	6/6	林縁や林内に生育し、高さ2～3m。株立ちになり、枝は斜上する。花は6～7月に集散花序を出し紅紫色の花をつける。果実は直径3～4mmの球形で紫色に熟す。ムラサキシキブに似るが、本種には枝や葉に毛があることが特徴。	
ヤマイバラ	バラ	バラ		西山作業路	5/28	5～6月、枝先に白い花が10～20個集まって咲く。花は直径4～5cmと大きい。葉は互生、長さ11～15cmの奇数羽状複葉。ノイバラの仲間では最も大きい。托葉は幅が狭く、ほぼ全面面が葉柄に合着する。	
ヤマツツジ	ツツジ	ツツジ		林内	5/22	山地に生え、高さ1～4m。葉は互生し、楕円状～卵状楕円形、夏秋葉は春葉より小さく、越冬する。花は両性、4～6月に開花。朱色の花を1～3個つける。花冠は漏斗状、縁は5中裂する。果実は長卵形のさく果、8～10月に熟す。	
ヤマボウシ	ミズキ	ミズキ	ヤマグワ	レストハウス、見本園	5/13	山地の林内や草原に生育し、高さ5～15mになる。花は5～7月に開花する。花びらのように見えるのは総苞片で、総苞片の中心に淡黄緑色の小さな花が20～30個密集してつく。果実は、9～10月に赤く熟す。	